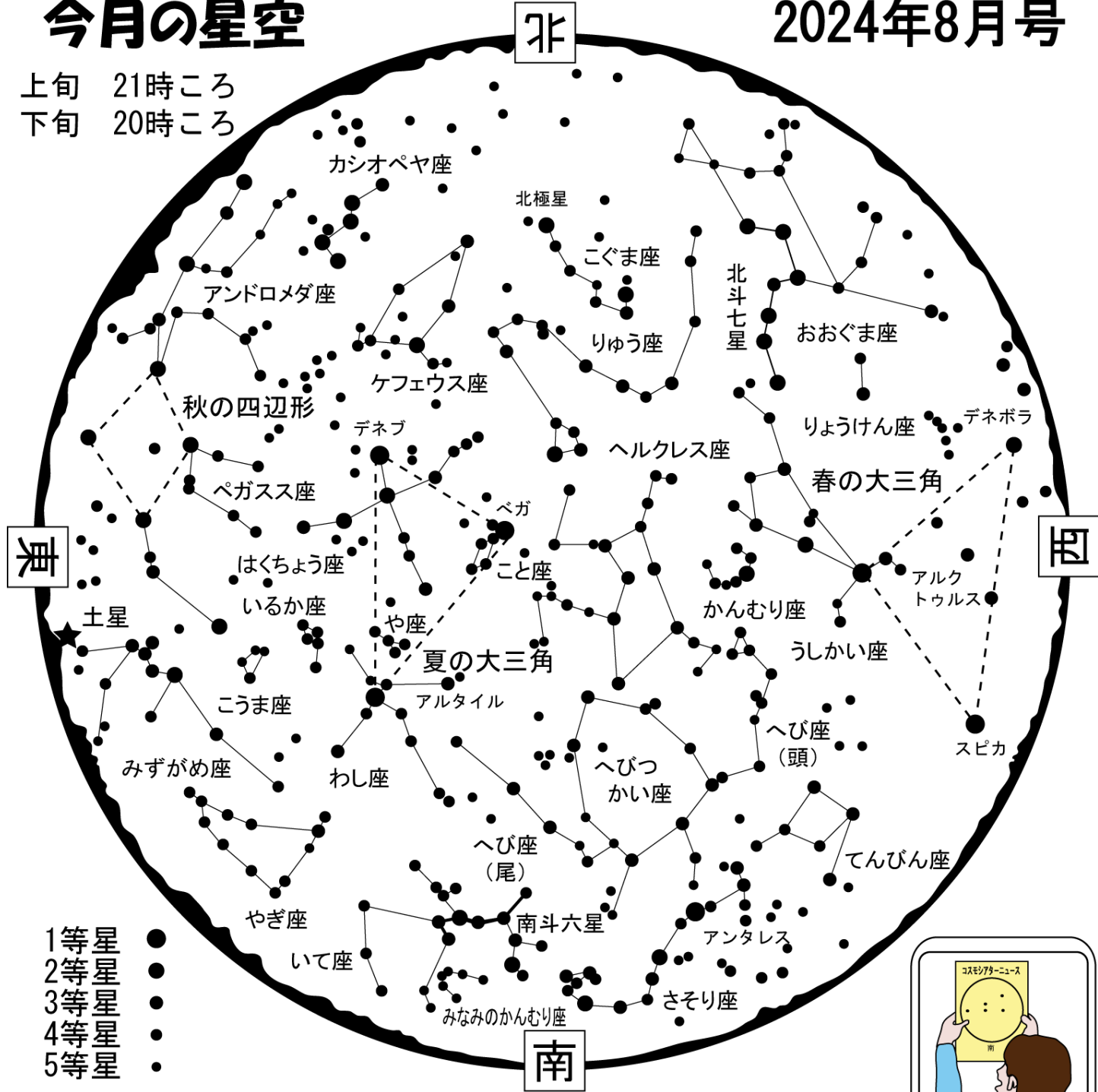


コスモシアターニュース

今月の星空

2024年8月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



惑星の動き

水星：夕方の西のたいへん低い空に見えます。明るさは、0~1等星です。7日に月と並びます。
金星：下旬以降の夕方、西のたいへん低い空に見えます。明るさは4等星です。
火星：深夜から明け方前、東の空に見えます。明るさは1等星です。28日に、月と並んで見えます。
木星：深夜から明け方前、東の空に見えます。明るさは2等星です。28日に、月と並んで見えます。
土星：深夜の東から南東の空に見えます。明るさは1等星です。21日の深夜、月と並んで見えます。

今月の月の満ち欠け

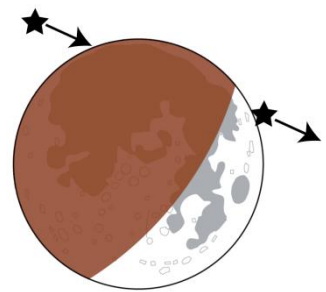
新月：4日(日) 上弦：13日(火) 満月：20日(火) 下弦：26日(月)



10日(土)、スピカ食

10日(土)の夜、半月より少し細い月と、おとめ座の1等星スピカが重なり、スピカが見えなくなる、スピカ食が occurs。スピカは1等星なので、簡単に見えそうですが、月に近づくとき月が眩しく、見にくくなります。観察には、双眼鏡や天体望遠鏡を使わないと、詳しい様子は分かりにくいでしょう。

さて、当日の夕方20時ころ、南西の空に輝く、月のすぐ左上にスピカが見えます。その後、月がスピカに接近し、月の欠けた部分に重なります。この時に突然、スピカが見えなくなります。松山では、スピカが見えなくなるのが、20時16分25秒ころです。その後、月がスピカの前を通りすぎます。そして、20時53分10秒ころ、スピカが月の右上に急に現れます。特に、月から出てくるときは、光った眩しいところからなので、天体望遠鏡を使わないと見えないでしょう。このように、月がスピカの前を通り過ぎるので、図のように、スピカが月の左上から月に重なり、右上から出てくるように見えます。肉眼でもどこまで見えるか観察してみてください。

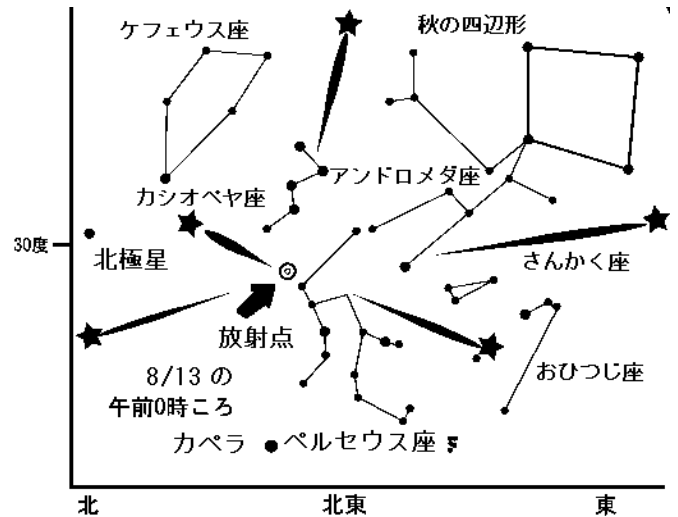


12日(月)ペルセウス座流星群が極大

今年のペルセウス座流星群は、12日(月)の23時ころに極大(いちばん多くなる時)となり、右の図のように流れます。ただし、ペルセウス座に流れるというわけではなく、ペルセウス座の方向から全天に向けて流れるように見えます。なお、今年は23時前に、月が沈み、月の明かりの影響は少なく、いい条件です。

流星が多くなるのは、ペルセウス座が空高く昇る、12日の21時以降で、23時から13日(火)の午前4時ころが多く見られる時間になります。このころは、松山市内では、1時間に15個程度、空の暗い郊外の場合、1時間あたり30個以上見えるようになります。見える方向は、北東の空が中心になります。おおまかに、北から東の空をながめればよいでしょう。

なお、13日の深夜から14日(水)明け方にもある程度の流星が見られます。ぜひご覧ください。

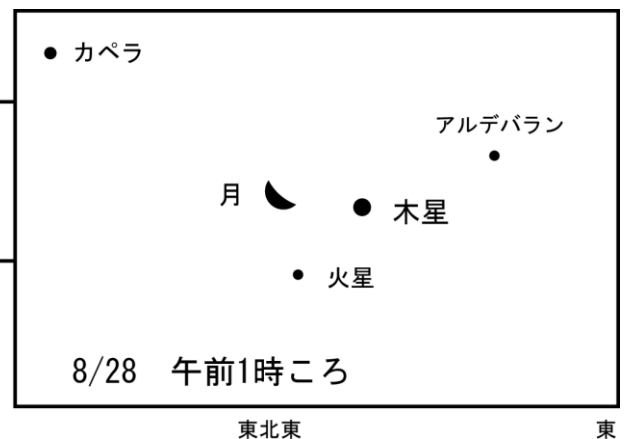


28日(水)、未明の空で、月と木星、火星が並んで輝く

28日(水)の午前1時ころ、東寄りの空に、半月より少し細い月が見えています。この月の少し右側を見ると、明るい星が見つかるでしょう。この星が木星です。木星は-2等星で大変明るくすぐに分かるでしょう。そして、木星の左下に目をうつすと、オレンジ色の明るい星が見つかります。こちらが火星です。火星は、木星より暗いのですが、1等星の明るさがあるので、肉眼ですぐに分かります。

この他、木星の右上に見える星が、おうし座アルデバランです。アルデバランは、火星と同じくらいの明るさで、同じようにオレンジ色をしています。また月から少し離れた左上に、ぎょしゃ座のカペラも明るく輝いています。

この辺りは、冬の星座方向ですが、8月末になると、未明の空に見えてくるようになります。なお、時間がたてば、空高くなってもっと見やすくなります。見える方向は、南の空に変わっていくでしょう。



天の川を見よう

7月~8月は天の川が最も見やすい時期です。天の川は、雲のようにぼんやりし、街の明かりがあると見えなくなってしまいます。また、月が輝いている時も見えません。8月は、4日が新月ですので、10日ころまでと、25日以降が見ごろとなります。

人間の目は暗い所に行くと、すぐには暗闇に慣れません。ですから、明るい部屋の中から急に外に出ても、天の川が見えないのです。最低でも5分くらいは、夜空を眺めて下さい。右の図は、8月中旬の20時ころの様子です。雲のようにぼんやりとしたものが天の川です。実際の天の川は、南の空にある部分が一番明るく見えます。ちょうどさそり座のしっぽ方向です。そして、天の川をさかのぼって頭上を見ると、夏の大三角があります。

